

建築工事業



K社

関東地方

1 事業所概要

地元を中心に住宅やマンションなどの設計施工、不動産管理を行っている。従業員数は14人。うち1人が身体障害者。

2 障害者雇用への取り組み

これまでに2人の障害者を雇用した実績がある。最初に雇用した人は内部障害者で、現在雇用している人は車椅子使用の下肢障害者である。

地域密着型の建設会社で、地元の障害者を雇用することは地域貢献の一つと考えている。また、高齢化が進展する中での住宅設計には体が不自由な人の視点（バリアフリー）が大事という考えもあり、障害者雇用に積極的に取り組んでいこうと考えている。

現在雇用している障害者は入社7年目で、会社になくってはならない人材になっている。

また、社長自ら障害者の体調や仕事の相談に耳を傾け、家族とも何度も顔を合わせて良好な関係を築いている。こうした取り組みが、障害者の精神的な支えになっていると考える。

3 採用・雇用管理等

採用はハローワークからの紹介で行っている。特に障害者に限った募集をしているわけではないが、ハローワークは当社を障害者を受け入れてくれる可能性のある事業所と捉えているようである。

障害者の受け入れにあたっては、事業所の玄関前の階段にベニヤ板のスロープを、トイレに手すりを取り付けた。採用にあたってとくに重視している点は、本人の人間性とやる気である。資格は本人の意欲次第で後から取得することができるので、特に重視していない。年齢制限はとくにないが、若い人の方が大きく成長できるのではと考えている。

Aさんの場合

【職種・雇用形態】

設計と積算を中心に、営業も行っている。正社員。

【障害状況等】

交通事故によって脊髄を損傷し、車椅子を使用。障害の等級は1級。20代の男性。

【採用の経緯等】

平成6年、ハローワークからの紹介により採用。その際、3人の障害者と面接したが障害者であることに甘えがなく、「CADで会社に貢献したい」という意欲が最も強かったAさんを採用した。

しかし、事業所内では「お客さんに迷惑がかかる」「会社のイメージダウンになる」と反対する声もあり、これらを説得するため雇用まで半年かかった。雇用後は、反対した人たちの評価も高く、今ではAさんがいなくては困ると言うまでになっている。

【職務内容及び職務遂行の現状】

障害者施設でCADの訓練を受けたことから、当初は設計者が作った図面をCADで清書するオペレーターとして入社した。しかし、本人は建築に関するさまざまな仕事をしたいという意欲を持っていたことから、徐々に仕事の幅を広げてきており、現在では2級建築士資格にも挑戦している。また、役所の申請業務や営業など、事業所の外にも自分で運転して積極的に出かけておりまた、現場に行き設計通りに施工されているか監理することもある。

保育園や教会など、健常者では目が行き届かない細かな配慮をする設計が得意で、営業に行くと「Aさんなら安心して任せられる」と特命で仕事を受注することもある。地域密着型の建設会社としては、担当者の人間性が仕事の受注を左右する面があり、その点Aさんは前向きな明るい性格で礼儀正しく、顧客からの厚い信頼を得ている。

【雇用管理】

勤務時間は8時30分から17時30分、休日は月2回の土曜日と日・祝祭日。月に1～2回は通院しており、その日も休みとしている。通院日の前後などには夜9時ごろまで残業することもある。

事業所から車で10分の場所にある社宅から自動車通勤している。事業所では何かあったら自宅に連絡するような体制をしいている。

2年前、障害部位の痛みが激しく、退職したいと希望したことがあったが、すでに事業所には欠かせない人材となっていたため、休暇を取って様子を見ることにし、3ヶ月後に復職することができた。本人はこの間、自発的に自宅で会社のホームページを作成していた。

本人が特別扱いされることを嫌がるため、事業所の施設で変えたのはスロープとトイレの手すりを設置したのみである。現場に行き2階に上がる必要がある場合は、健常者の社員が車椅子ごと抱えて上げている。